

2017年度

早慶高校合格者インタビュー



慶應義塾高校合格 K・Wさん (茨大附属中卒)
慶應湘南藤沢高合格 K・Sさん (茨大附属中卒)
慶應義塾高校・慶應湘南藤沢高合格 K・Yさん (水戸英宏中卒)
早大本庄高・慶應湘南藤沢高合格 S・Tさん (大島中卒)

司会：首都圏難関高合格おめでとうございます。まずは、水戸アカデミーに通って良かった点をお聞きしたいのですが。

K・W (以降W)：自分は緊張感を持って集中してハイレベルな早稲アカ難関の授業を受けることができたことです。

K・S（以降S）：水戸アカに行くことで勉強時間が増えたこと、集中して取り組むことができたことです。

S・T（以降T）：早稲アカ難関があったのが大きいです。早慶高合格を本気で目指すなら、公立中学校ではそういった勉強は全くしないし、早慶高を受験する気にもならなかったと思います。その点で感謝しています。

K・Y（以降Y）：早稲アカ難関の授業のレベルが高くて、追いつこうと頑張っていると学力と自信がついたのが良かったです。

司会：学校の授業と早稲アカ難関での授業の違いはどうでしたか。



慶應義塾高校合格 K・W君（茨大附属中卒）

W：水戸アカでは、首都圏受験者向けの授業と県立受験者向けの授業が分かれています。学校はひとクラスに様々な人がいるので、県立に向けた簡単なものとかが多かったです。

T：学校の授業だと、一番下の人が遅れないように、みんなに合わせてやっていますが、水戸アカの早

稲アカ難関だと真逆で、一番できる人についていくという前提があって、しかも予習をやってくるのが当たり前で、問題ばかり解いて疲れたんですけど、学力はかなりついたと思っています。あと、予習をすると自分で気になったところとか調べるから、気がつかないうちに知識が増えていると思います。

司会：首都圏高に合格しても入学しない人もいますが、君たち全員は入学するわけで、早慶高に進学する理由は何ですか。

W：慶應大学につながっているんで、自由な7年間を手に入れられるからです。

S：兄は早稲田大学に入ってあこがれていたんで、早慶に行きたいと思っていました。

T：僕は陸上部だったんですが、早稲田大学の駅伝部に小さい頃からのあこがれがあって、それが現実になった感じです。

Y：慶應義塾高の説明会に行って、それで雰囲気圧倒されたというか。それで入りたいと思いました。

司会：実際に受験会場でどんな風に感じましたか。

W：いろんな塾の受験生が大勢いる中で、とても怖かったですね。受験生がとても多くて、倍率も県立よりも高くて、優秀な人達ばかりなので、雰囲気もピリピリしていました。



慶應湘南藤沢高合格 K・S君 (茨大附属中卒)

S : 受験校に入るときに、色々な塾の先生が受験生を応援していて、アウェー感があったんですが、教室に入ってから、休み時間とかはなるべく教室の外に出て、新鮮な空気を吸ったり、そこで気持ち切り替えたりして次の教科に備えました。

T : 早稲田大学で受けたんですけど、人がすごく多くて、入る前は塾の先生がものすごくいて、周りの受験生も友達なんかと来ていたのですが、僕だけ一人で、前の日にホテルに泊まって、一人だけ大荷物抱えて入ったんですけど、早稲アカの土曜特訓の先生が一人いて、それが心の支えになりました。教室に入ってから、1クラス200人ぐらいいて。200人いても、ほぼみんな黙って勉強してて、意識は高いんだなと思いました。

司会 : 実際に早慶の入試問題を解いてみて、なにが難しかったですか。

W : 慶應義塾の英語は過去問を解いていたんですが、傾向が以前と大幅に変わって、長文がすごい長くなって。対話文がなくて、焦ったんですけど、時間配分をしっかりと守って乗り切りました。

S : 僕は数学なんですけど。今までの過去問などを解いていても、僕的には難しく焦ったところもあったんですけど、できなそうな問題は割り切って、残りの解けそうな問題に切り替えて。どうやったら点数が

伸びるのかを頭で計算しながら、残りの時間を使っていったかなと思っています。

T：1時間目が、ずっと得意教科だった国語だったんですけども。解いた後の手応えで9割くらい取れたかなと思ったのもあって、そこから勢いがついて。2時間目の数学は、整数問題が苦手なんですけど、最後の問題、最後の大間でまるまる出てきて、そのとき水戸アカの先生に言われた「できない問題は絶対あるから、できるところを取って」と言うのを思い出して。とりあえず取れるところは全部取れたと思います。



慶應義塾高校・慶應湘南藤沢高合格 K・Y君 (水戸英宏中卒)

Y：英語を解いたんですけど全体的に相性の良い問題というか、自分で解きやすい問題ばかりで大丈夫でした。

司会：早慶高を受験する後輩にアドバイスをお願いします。

W：国語だったら時間配分が大切です。ぐちゃぐちゃに書かないで、どこが自分が間違えたか、見つけることも大事。英語だったら、文法が得意なら文法問題を確実に処理することが大切で、長文問題は時間をしっかりかけて取り組むのが良いと思います。

S：全体的になんですけど、できない問題があったときに、その問題にずっと取り組むんじゃなくて。それはちょっとあきらめて、他の取れるところを取ることが大切なんだと思います。

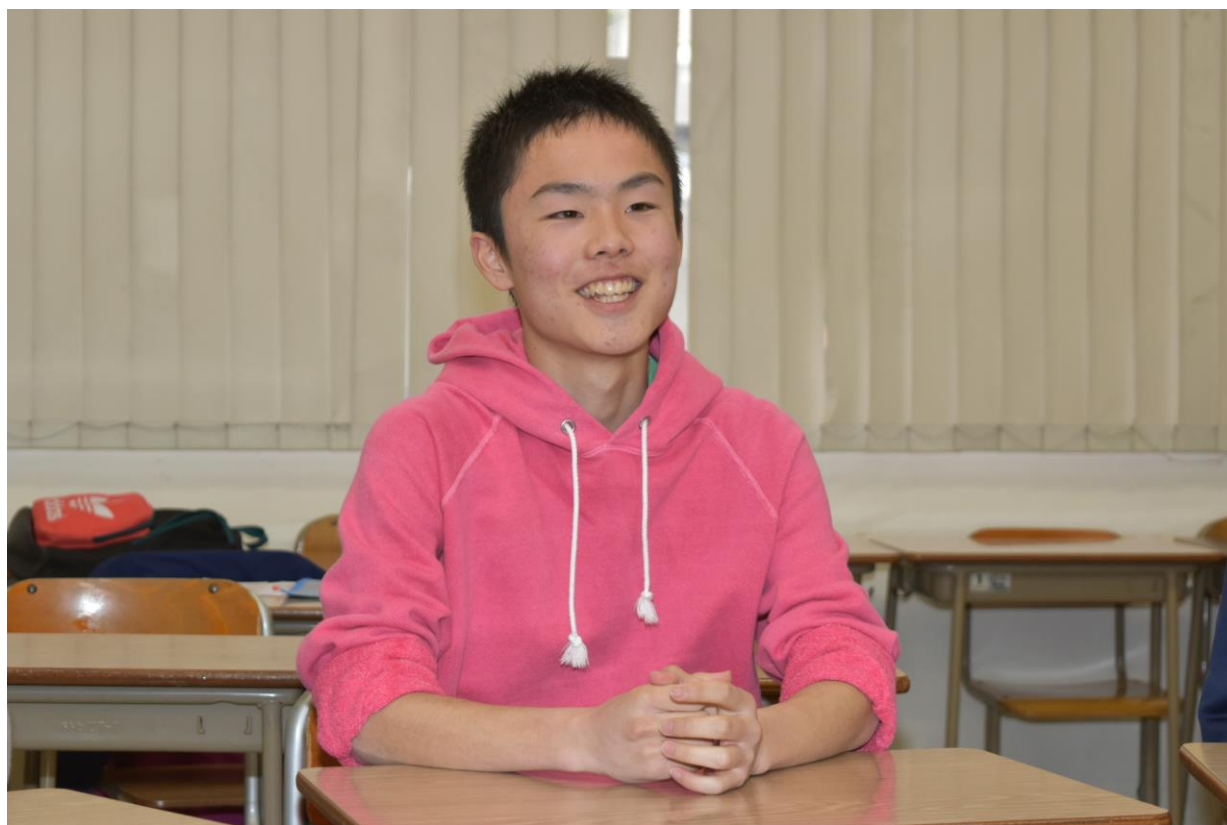
T：普通のことなんですけど、本番ではあせらず、県立と同じ気持ちで。100点が当たり前みたいな気持ちで。英語・国語はすごい長いんで。どれだけ集中できるかが、本番で大事になると思います。

Y：得点を取るところとそうじゃないところを見極めて。あと、緊張をできるだけなくするために、一種の自己暗示みたいな感じなんですけど、面接の前や試験の前に、(体が)縮こまっている人が多いんですけど。あえて、あえて自分は堂々として待っていると、気持ちが堂々となり、気持ちが落ち着く。緊張したポーズをとらないことですね。

司会：入試を通して自分が一番成長したと思われる点は何でしょうか。

W：自分のことを信じて、緊張しないことだと思います。

S：高校受験の時は、志望校に絶対合格するぞ、という思いでできたので、1つのことを成し遂げるために必要なものは、今回の高校受験で身につけられたと思います。



T：中2までは親に言われるがままに、なんとなく勉強していたんですけども、中3になって、はじめて自分で行きたいところを見つけて、それに向かって勉強するということを、はじめてしたので、強い意志と責任感を持てるようになりました。

Y：周りの人に言われたり、模試の結果をみるよりも、やっぱり自分で努力してきたことの方が自信につながると思うので、努力することの大切さみたいなものを知ったことです。

司会：首都圏難関校を目指す後輩達へのアドバイスをお願いします。

W：本番で多少しくじることもあるので、本番で負けない力と折れない心を身につけるといいと思います。

S：月例テストとかで、良い点数を取っている人なんかを目指して、ライバル心を燃やして勉強に取り組むといいと思います。

T：挫折しないということだと思います。首都圏高校を受けるというと、学校で今まで1番が当たり前という、そういう優秀な人たちばかりが集まってくるので、初めて挫折することが多いと思うけど、自分もそうだったんですけど。挫折したときに、みんなも周りもこれくらい頑張っているから、自分も頑張ろうと思って頑張ることが大事だと思います。

Y：高校受験でスタートラインといっても、実際、高校によって、その後の人生が変わる可能性が高いので、できる限りの努力をするべきだと思います。



高校に入っても頑張るぞ！！